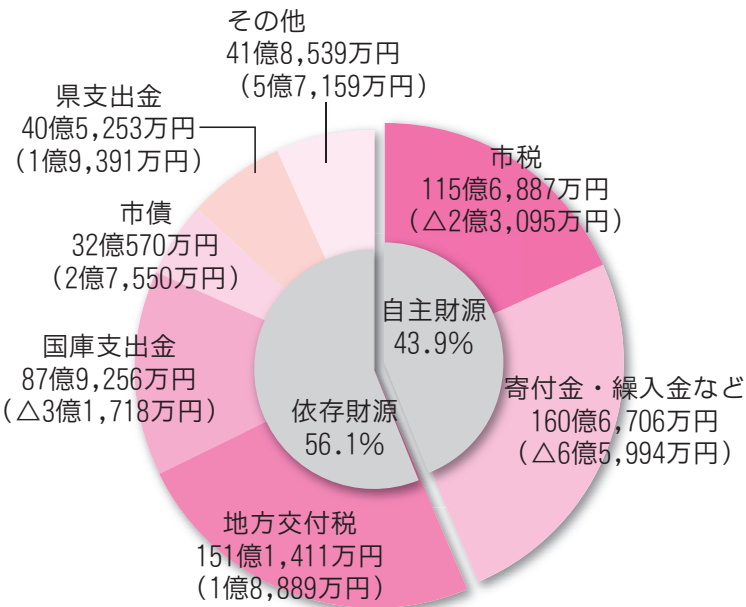


歳入を前年度と比較すると

自主財源の代表的なものである市税は2億3095万円(2.0割)減少。自主財源全体では、繰越金の減少などにより8億9089万円(3.1割)減少しました。

歳入[入ってきたお金]

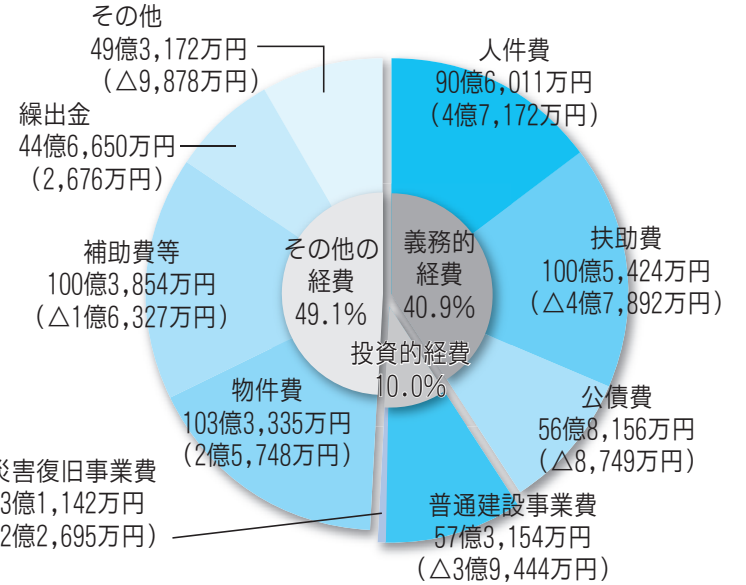


【用語解説】▶自主財源・依存財源／市税や施設使用料など、市が自らの収入とすることができる財源が「自主財源」。地方交付税、国庫・県支出金など、国や県から交付される財源と借入金が「依存財源」。▶地方交付税／市の行政需要と財政力に応じて、国から交付されたお金▶国庫支出金・県支出金／事業の財源として使い道が特定された、国や県から交付されたお金▶市債／事業を行うために、市が国や金融機関から借りたお金

歳出を前年度と比較すると

義務的経費は、電気・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付の減少などによる扶助費の減少により9469万円(0.4割)減少。投資的経費は、産業団地整備事業

歳出[使ったお金]



【用語解説】▶義務的経費／人件費など、支出することが制度的に義務付けられている経費▶投資的経費／道路や学校の建設事業費など、将来的に残るものに対する経費▶扶助費／児童・高齢者・障がい者・生活困窮者などへの支援に要した経費▶公債費／過去に発行した市債などを返すための経費▶補助費等／事務組合や各種公益団体に対する補助金などの経費▶物件費／施設の光熱水費や各種委託料などの経費▶繰出金／一般会計から国民健康保険特別会計などの特別会計へ支出した経費

費の皆減(特別会計で実施)などによる普通建設事業費の減少により、1億6749万円(2.7割)減少しました。その他の経費は、ソフトウェア使用料の増加などによる物件費の増加により、2219万円(0.1割)増加しました。歳出全体では2億3999万円(0.4割)減少しました。

イーハトーブ花巻応援寄附金(ふるさと納税)の活用状況

令和6年度の寄付金額

令和6年度は約55万件、総額で84億2574万円の寄付を全国の皆さんからいただきました。いただいた寄付のうち、返礼品や手数料などの事務経費を除いた金額を、本市のまちづくりに関するさまざまな事業に活用しました。

なお、本市では▼しごと▼暮らし▼健康・いのちなど寄付金の使い道(分野)を設定し、寄付者には、その中から希望する使い道を選んだ上で寄付をいただいています。

ふるさと納税基金(貯金)の設置

市では、いただいた寄付金を有効活用するため、令和5年度から「イーハトーブ花巻応援基金」を設置。いただいた寄付金のうち、当該年度に活用しきれなかった分を、この基金に積み立てて、次年度以降の事業に活用することとしています。

寄付金と基金を事業に活用

令和6年度は、寄付いただいた84億2574万円と令和5年度に基金に積み立てた15億円を合わせた

99億2574万円のうち、返礼品や手数料などに40億7706万円を活用し、基金へ17億5000万円を積み立て、残りの40億9868万円を令和6年度の市の事業に活用しました。

ふるさと納税を活用する事業に関する市の考え方

市では、ふるさと納税による多くの寄付をいただいていることを理由に、新規事業を実施しているわけではなくありません。寄付いただいた皆さんが指定した使い道に沿って、ソフト事業(※1)に28億4968万円、ハード事業(※2)に12億4900万円、ともに既存事業を中心に寄付金を活用しています。

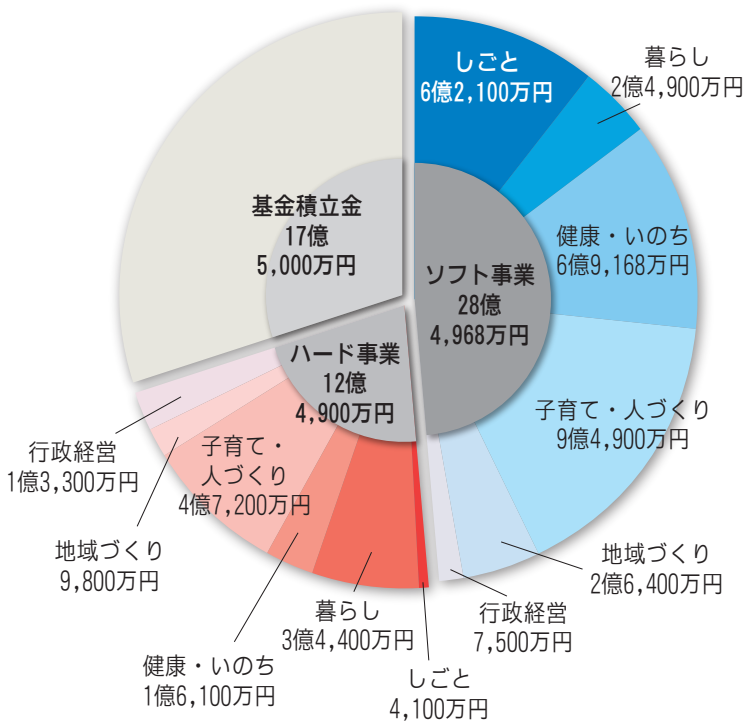
- ※1: 医療費助成やイベント開催、補助金の交付など。形として残らないものを提供する事業
- ※2: 道路の維持や施設の改修、建設など目に見える形で提供することができる事業

寄付金を活用した具体的な事業などは広報はなまき8月15日号または市ホームページをご覧ください。



寄付金・基金の使い道(分野)ごとのふるさと納税の活用金額

ソフト・ハード事業ごとの寄付金・基金の活用金額



分野ごとの寄付金・基金の活用金額、活用事業数

分野	事業への活用金額	活用した事業数
①しごと	6億6,200万円	31事業
②暮らし	5億9,300万円	10事業
③健康・いのち	8億5,268万円	18事業
④子育て・人づくり	14億2,100万円	46事業
⑤地域づくり	3億6,200万円	7事業
⑥行政経営	2億 800万円	3事業
合計	40億9,868万円	115事業